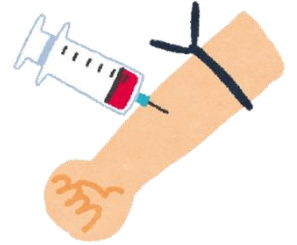


ご存じですか？採血管

採血をする際、「5本も取るの!?!」『今日は2本だけだね。』なんて声をよく耳にします。血液検査は何種類もの採血管を使いわけて、いろいろなデータを測定しています。採血の際に採血管を間違えないように採血管のフタに色がついていて、その色ごとに内部の薬剤が違います。

今回の検査室だよりは日ごろよく目にする採血管の一部をご紹介します！



【生化学】1本あたり5mL

ナトリウム、カリウムなどの電解質やコレステロール、中性脂肪などの脂質の他いろいろな酵素、腎臓の機能指標であるクレアチニンなどの血中濃度、また感染症にかかっていないかなどを調べます。検査の項目によって必要になる血液の量が変わるので生化学の採血が2本や3本になることもあります。

【血糖】1本あたり2mL

血液中の糖分である血糖値や、1~2か月前の血糖値を示すHbA1c(ヘムoglobin A1c)を調べます。

【血算】1本あたり2mL

赤血球や白血球、血小板などの数をかぞえ貧血などを調べます。白血球は体内に入ってきた細菌やウイルスを倒し、血小板は出血を止める働きがあります。

【凝固】1本あたり1.8mL

出血を止める能力を調べます。血液をサラサラにする薬の効果がしっかりコントロール出来ているかを確認することもできます。

【トロポニン】1本あたり2mL

心不全、心筋梗塞が発生しているか、またどの程度かを調べます。

信楽園病院では今回紹介した採血管の他にも、様々な採血管を使って血液検査を行っています。採血管によって薬剤が異なるため、血液の色が濃く見えたり薄く見えたりすることがあります。しかし貧血かどうか、血液に異常がないかは検査をしてみないと分かりません。採血された血液が『なんだかいつもと違うな…』と感じたら診察のさいに先生に相談してみてください。

採血の時、ふだん見ない採血管を見かけたら
これは何を測る採血管なの？とぜひ聞いてみてくださいね！

